

(要約版)

ネパール、グルン社会における若者組ロディと喫煙文化に関する社会人類学的研究

助成研究者 吉元菜々子（首都大学東京大学院）

1. 研究目的

本研究は、中央ネパールの中山間地帯に主に居住するグルンと呼ばれる人々の社会を対象とし、たばこの贈与や交換を含む広義の喫煙行為の社会的意味を、特にグルンの若者組ロディという社会的制度に着目しつつ通時的視点から明らかにすることを目的としている。具体的には、①かつて若者組ロディの集まりにおいて、たばこの贈与や交換を含む喫煙行為が男女間のコミュニケーションにおいていかなる機能を担っていたのかについて検討し、グルン社会における社会制度と喫煙文化の絡み合いを紐解く。②男女双方に親しまれていたたばこがいかんして現在のように男性のものとなり、女性の喫煙は道徳的に反するものとして語られるようになったのか、その歴史的変遷を明らかにする。③現在のグルン社会における喫煙文化を過去との比較を含めて明らかにする。以上、三つの課題を検討することによりグルン社会における喫煙文化を総体的に描き出すとともに、グルン社会独自の若者組ロディとたばこの結びつきについて考察する。

2. 研究方法

本研究では、ネパールのグルンの村落における実地調査と文献研究を行った。実地調査では、筆者がこれまで長期調査を行ってきたカスキ郡のC村において聞き取り調査を行い、ロディにおいていかにたばこの贈与や交換が行われていたのかという点を中心に当時のロディでの喫煙行為の様子を語ってもらった。それに加えてラムジュン郡のグルン諸村落を訪問し、C村において観察される現在の喫煙層や喫煙に関する道徳規範等の基礎的な情報を収集したほか、C村において行ったのと同様の聞き取り調査を行い、データの蓋然性や地域偏差を確認した。なお、実地調査は2016年6月～7月、9月～12月、2017年1月～3月のネパール滞在期間中に断続的に行った。文献研究ではグルンに関する民族誌的資料を用いて若者組ロディやその他社会制度のかつての様子について明らかにし、実地調査で得たデータの比較資料にしたほか、ネパールのたばこ産業や喫煙文化に関する資料を収集し、グルン社会を取り巻くマクロな状況を把握した。

3. 研究成果と考察

グルンとは、主に中央ネパールの中山間地帯に居住する人々である。現在のグルン村落において、たばこを嗜むのは年配の女性と男性のみであり、若い女性は喫煙しないが、しかし先行研究と聞き取り調査によれば、かつては若い女性も含め、男女問わず皆がたばこを嗜んでいたという。

かつてのグルン村落における喫煙文化の一端を示すのが、ロディの集まりにおけるたばこの

贈与、交換である。ロディとはグルン社会における一種の若者組である。ロディは基本的には女性の組織であり、10代の女性を中心に構成されている。ロディの成員の女性たちは毎夜ロディガルと呼ばれる家に集まり、そこで手仕事等をしながら夜を過ごす。その際には同年代の男性グループも訪れ、歌や踊り、おしゃべりに興じていた。

本研究では、先行研究の検討とネパールにおいて実施した聞き取り調査の成果をもとに、ロディを介した男女間でのモノの贈与・交換の例を三つ挙げた。一つ目が、男性のロディから女性のロディへと贈与されるショールとミルク粥（とその返礼に贈られる米粉の揚げドーナツ）であり、二つ目が男女間で個人的に贈与・交換される竹細工や手工芸品、そして三つ目がたばこである。一つ目はある特定の女性のロディと男性グループとの間の関係性をより強固にするための、集団間で行われる贈与である。これによって、その男性グループと女性のロディとは特別な名前呼びあう関係性になる。一つ目と異なり、二つ目と三つ目は男女間で個人的に行われる贈与である。では、その違いは何か。二つ目の竹細工や手工芸品といった手の込んだ物の贈与は時に恋愛関係に発展しうる特定の男女二者間で贈与・交換されるものである。一方で、ある女性が男性にあげるために「いつも一本たばこをポケットに入れていった」と語るように、またある男性がロディガルにおいて女性にたばこをあげることによって自己紹介や会話のきっかけにしていたと語るように、たばこの贈与はロディガルではより気軽に、日常的に行われていた。さらに、たばこの贈与を介した男女のからかいあいが当時どのように行われていたかに関する語りからは、ロディガルというたまり場における日常的な交流の様相が明らかになった。ロディガルにおける他の贈与・交換物との比較を総合すると、ロディの集まりにおけるたばこの贈与は、誰にでも開かれたものだったのであり、たばこは、その時その場所でなされるコミュニケーションのための、男女双方にとって汎用性の高いツールの一つであったのだと考えられる。

現在、若い女性による喫煙が、表立って道徳的によくないものとして語られることはないが、調査によって得た事例を読み解けば、現在のグルン村落では若い女性はたばこを吸わないものとしてごく自然と認識されていると言える。しかし一方で個人に目を向ければ、一般的な認識とは異なり、夫に隠れてたばこを吸う若い女性の例や、喫煙が是認されているはずの男性であっても個人的な視線を意識して喫煙を隠す例など、より微細な人間関係に埋め込まれた実践が確認された。

現在グルン社会にロディは存在しないが、1990年代以降のネパールにおける少数民族による民族運動の興隆とそれに伴う自文化意識の高まりを受けて、現在ロディは一つのグルン文化として様々な場面で語られ、表象されている。そのロディ表象においてはノスタルジア全般に見られるように好ましき側面のみが前景化するという特徴もみられるが、たばこが男女間で交わされていた模様は捨象されてはいない。懐かしきロディガルの光景を人々が語る時、たばこは、ロディガルでの男女間のやりとりの機微を言いあらわすために言及される一つのモチーフとなっているのである。